

## 福井市公民館の発信基地として

### — 地区公民館との連携を通し、先進的事業の発信をめざして —

#### 1 福井市中央公民館の沿革・概要

福井市中央公民館は、昭和45年4月に市役所後側に鉄筋3階建てを建設し創立された。（順化地区公民館と併設）館長は順化公民館の非常勤館長が兼務し、主事は市職員1名が配置された。

平成19年4月19日、アオッサのオープンと同時に5階に中央公民館が移転した。勤労婦人センター、勤労青少年ホーム、青年の家が併せて閉鎖され事業を中央公民館が受け継ぐことになった。専任の非常勤館長と市職員の副館長、社会教育指導員2名、非常勤主事6名の計10名になる。

令和5年度には、館長1名、市職員の副館長1名、社会教育指導員4名、主事7名、管理人1名の計14名で運営している。

中央公民館で実施している講座等は「ふくい中央みらいカレッジ」と題して、福井市在住または市内に勤務している方ならば受講可能である。

講座は4つのコースがあり、福井学コース、いきいきコース（はばたきコースとはつらつコースに分かれる）、青少年コース、ICT学習コースがある。このほか、市民公開講座、現在35グループが活動する市民学習グループがある。

#### 2 中央公民館の特色ある講座・活動の紹介

##### (1) 福井のことをもっと知ろう！「福井学基礎講座」

福井市の事象に関する学習を通して福井の特色や魅力を見つめ直し、福井の豊かさをあらためて実感する講座として実施している。令和5年度の講座内容としては、「映画『おしよりん』の眼鏡産業の礎を築いた増永兄弟」「北陸新幹線開業に向けて」館外学習として「三里浜オーリーブカルメリーナ（農園）訪問」など福井にゆかりのある産業、観光、歴史について掘り下げていくものである。講座生からは「福井にずっと住んでいるが、福井のことでまだ知らないことがたくさんある。受けてよかった。」という声が聞かれた。受講生では毎年受講しているリピーターの方も多い。

福井学基礎講座のほかに、福井学コースでは近年新設した「福井学文学講座（俳句編）」がある。俳句作り初心者を対象として、福井の自然の豊かさを言葉に紡ぐ俳句作りを通して感じ取ることを目指し、仲間づくりにも寄与している。令和4年度講座終了後には俳句作りの学習グループが立ち上がり、継続して俳句作りに励んでいる。

また、福井にゆかりのある歴史上の人物に焦点を当て探る「専門コース歴史講座」も福井学コースの中にある。いずれも熱心な受講生が多く、アフタコロナもさらに多くの受講生でにぎわっている。

##### (2) 自分たちで講座を作ろう！「大人になる講座」

そもそも他の講座のように講師を呼んでこの講座も行われるはずだった……。18歳成人となる青年を対象に令和4年度に始まった講座であったが、コロナ禍の洗礼を受けた。受講生の所属する高校のほとんどでコロナが流行し、講座が中止になってしまったことが当講座の方針転換のきっかけである。受講予定だった高校生を集めて「これからどうしたい？」と問いかけたところ、「自分たちで講座を企画して運用していくことはできないか」から新しい「大人になる講座」が始まった。11月に高校生を集め（6高校から11名）関心のあるテーマから3グループに分けて、どのようにやりたいかを思う存分話し合った。

初年度は、次のテーマで講座を行うことに決定した。一期生が企画したのは「高校生のためのパーソナルカラー」「できたが増える楽しいそろばん」「油絵をたしなもう」「高校生のための看護系の道（看護師、保健師、養護教諭）」二期生が企画したのは「英語でクッキング」「パンケーキ作りに挑戦しよう」など、高校生それぞれの思いでテーマが決まり、講座が実践されていった。講座の企画、当日



の運営（司会進行など）、講師との打合せは、高校生が主体となって行うが、主事がサポートとして入っている。参加した高校生からの感想からも、「自分たちが企画した講座に参加して肯定的な感想をもらい、充実した取組ができた」という言葉がある。令和5年度現在では二期生が活動中であるが、一期生との交流会も企画し企画運営のノウハウが伝承されつつある。今後地元で大学生や社会人になっても、OB,OGとして新たな高校生にボランティアアドバイザーとして活躍してくれることを期待している。

### (3) 自主学習グループ発表の場「学び舎フェスタ」

当館にはアオッサ移転前からの勤労婦人センター・勤労青少年ホーム・青年の家から、また当館の講座からもっと学びを深めたいという有志の集まりから派生してできた自主学習グループが、令和5年度現在で、35グループがある。

これらのグループが年に1回、自分たちが学んできたこと、または活動してきた成果を発表する場として「学び舎フェスタ」と称する発表会を開催している。

従来はアオッサ6階等の部屋を利用して、式典や発表会、展示発表等を行っていた。コロナ禍の2年間は縮小した形で実施した。令和4年度はアオッサ1階のアトリウムを利用して展示発表・映像発表のみを行い、コロナ禍であることを考慮して式典等は行わなかった。

ようやくコロナ禍から明けて、令和5年度は駅西（いわゆる駅前）のハピテラス全面を利用して、式典（地域貢献賞の表彰など）ステージ発表、展示発表、体験コーナーを実施した。あいにく当日（10月28日）は冷たい雨の降る天候ではあったが、前年度の倍以上の参加者があり、大変にぎわった。

どの地区館でもそうであろうが、グループ成員の高齢化が課題になっている。これが原因で解散を余儀なくされたグループもあり、グループ数も減少の傾向にある。この駅前の人通りの多い所で「学び舎フェスタ」を実施することで、グループに興味を持って、加入したいと思う人が増えることを願っている。



## 3 地区公民館との連携

### (1) Zoomで配信！事業

コロナ禍の際に、リモートで会議や打合せをする機会が増えたが、中央公民館で行っている講座のいくつかを、地区公民館にZoomで配信することにより、地区公民館主事の研修や、地区公民館に出入りする地区民の方の講座として実施した。令和4年度は6講座、5年度は5講座実施したが、コロナ禍も明けて少しずつそのニーズも減少してきている。ただし、「いきいき子育てサロン」については、乳幼児子育て中の方に配慮して、事業とは別に全5講座をZoomで受講できるようにしている。課題としては、機器の不具合が生じることや、スマホ教室など、個別的な指導が必要なものについては、細かな配慮が必要な点が残る。

### (2) 地区の実践発表「福井学講座と環境講座」

各地域で実践されている内容を、当館の福井学基礎講座で発表してもらうことを実施している。令和4年度は、和田地区から「赤大豆を和田地区の名産に」と題して和田地区七福神による寸劇を交えながら、和やかな雰囲気の中で発表が行われた。令和5年度は、旭地区から「福井文化遺産『馬鹿ばやし』を次の世代へ」と題して行われた。

環境講座においては、令和4年度は松本地区から「公園の砂場が花壇に生まれかわる」岡保地区から「地域を潤す名水『岡の泉』を守るために」。令和5年度は東安居地区から「下市山ミルキングコース登山道整備」越廼地区から「越前海岸海ごみ清掃活動」と題して、各地区の環境問題に取り組んだ内容を講座生に向けて発表していただいた。いずれもZoom配信事業として希望する各公民館に配信した。

## 4 まとめと今後について

先進的事業の推進が中央公民館の使命の1つであり、前述した「大人になる講座」がその1つである。若者を公民館に呼び込むことは、なかなか難しい課題である。高校生を引き込むきっかけとなった当講座をこれからも発展継続させていきたいと考えている。

地区公民館と並列の公民館という立場であるが、講座生は福井市全体を対象にするというスケールメリットを活かして、今後も中央公民館としての活発な公民館活動を促進していきたい。